



国立大学法人 千葉大学
National University Corporation
Chiba University

ニュースリリース

平成22年12月1日

県政記者クラブ加盟社 各位

千葉大学学生部留学生課

記者発表のお知らせ

(国際化拠点整備事業の維持・強化に6大学が共同声明)

このたび、文部科学省・国際化拠点整備事業が11月18日(木)の行政刷新会議・事業仕分け第3弾において「一旦廃止し、組み立て直す」との評価結果が出るにいたしました。この事業には「日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業」が含まれており、本学の他5大学のプログラムが採択され、既に実施されています。

当事業は、大学における留学生教育の拡充において重要な役割を占めるばかりでなく、各大学の「環境・エネルギー分野」又は「健康分野」において、中国・韓国等の大学間での国際交流を通して各大学の教育・研究の成果を社会にフィードバックさせるという大変重要かつ先駆的な事業です。

千葉大学では「植物環境デザインングプログラム」として、多面的な都市環境において「植物による環境への貢献」を促すことができる技術に関する国際的な人材「環境園芸デザインプロフェッショナル」の育成を目的とし、応用研究をマネージできる未来のリーダーの育成を、日本企業・中韓の大学コンソーシアムとの連携により推進するプログラムを実施しています。

つきましては、別紙のとおり6大学の連名により、当事業の維持・強化について共同声明を発表し、政府や国民の皆様当事業の重要性をご理解いただくとともに、関係各位の皆様には何卒ご支援いただきますようお願い申し上げます。

[参考資料]

- 1) 国際化拠点整備事業(日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業)の維持・強化についての要望
- 2) 千葉大学「植物環境デザインングプログラム」について
- 3) 日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業選定取組一覧

本件に関するお問い合わせ先
千葉大学大学院園芸学研究科

研究科長 木庭 卓人

教授 高垣 美智子

Tel : 047-308-8702 Fax : 047-308-8720

E-mail : zab8702@office.chiba-u.jp

国際化拠点整備事業(日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人
育成事業)の維持・強化についての要望

平成22年12月1日

千葉大学大学院園芸学研究科長	木庭卓人
東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科長	賞雅寛而
富山大学医学薬学教育部(薬学系)・薬学部長	今中常雄
金沢大学理工研究域長	山崎光悦
長崎大学大学院生産科学研究科長	中田英昭
中央大学大学院理工学研究科委員長	石井洋一

私たちは、平成22年11月に実施された行政刷新会議・事業仕分け第3弾にて、文部科学省の国際化拠点整備事業に対し、「一旦廃止し、組み立て直す」との評価結果が出たことに強い衝撃を受けております。今般、評価対象となった文部科学省国際化拠点整備事業の中には、私たち6大学が実施している「日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業」(以下、日中韓専門職業人育成事業と略します。)も含まれています。

この日中韓専門職業人育成事業は、平成21年10月に、北京で開催された日本の鳩山由起夫総理、中国の温家宝首相、韓国の李明博大統領の首脳会談での合意に基づいて開始された事業です。その目的は、3カ国間の大学間の交流促進と、それに基づいて東アジア全体の持続可能な成長に貢献できる高度な専門職業人の育成です。特に、わが国では、この首脳会談の合意を実行するにあたり、日本の「新成長戦略」を踏まえ、(1)環境・エネルギー分野、(2)健康分野に焦点を絞り、3カ国間の大学間の交流促進を通して行うこととされ、厳正な選定プロセスを経て、私たち6大学での事業実施が決められました。

周知のとおり、日中韓3カ国を中心とした東アジア地域は、グローバル化する経済の成長センターであると同時に、持続可能な発展を脅かす環境・エネルギー問題や少子高齢化などに起因する健康・福祉問題を内在しています。これら諸問題の解決に向け、日中韓3カ国が国境を越えて協調し、かつ、産業界と大学も相互に連携して、実践的な職業人材の育成を図ることは、今後、50年、100年といった視野に立った時、極めて重要かつ意義深い取り組みです。特にわが国の進んだ環境・エネルギー分野や健康分野における技術・研究成果を中国・韓国出身の留学生に教授することは、ひいては、わが国の当該分野の国益にも適うものと強く確信しています。

9月の採択通知を受けてそれぞれの大学では事業を推進するべく各種交流事業を新規に開始、あるいは取組み強化を図ると共に、来年4月招へいの学生募集・入学選抜を開始しております。この段階で補助金事業の中止あるいは当初からの規模縮小となると、申請段階での計画の維持が困難となり今までに積極的な交流を展開してきた両国の交流相手大学の信頼、ひいては中国、韓国両

国との国際的な信頼関係を大きく失墜することが強く懸念されます。

日本の留学生教育における国際交流・国際貢献は、わが国の東アジア地域でのプレゼンスを高める効果も持ち得ていると言えます。また今日の東アジアにおける厳しい社会情勢下においては、人的交流を介して互いの深い友情を結ぶことが日本の将来にとって重要と考えます。私たち6大学は、このような強い思いの上で、日中韓専門職業人育成事業を実施・推進しております。政府および国民の皆様には、このようなグローバルな観点と長期的視野、ならびに「新成長戦略」の重点項目の実施に寄与する当事業の役割をご理解賜り、当事業を維持・強化されることを強く要望いたします。

日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業

〈植物環境デザインングプログラム〉 (分野融合型プロフェッショナルスクールの創成)



【取組概要】

多面的な都市環境において「植物による環境への貢献」を促すことができる技術に関する国際的な人材「環境園芸デザインプロフェッショナル」の育成を目的としている。応用研究をマネージできる未来のリーダーの育成を本学と日本企業、中韓の大学コンソーシアムとの連携で進めて行く。

【事業の特徴及び育成される人材像】

- 〈特徴〉① 各国の「都市部」をフィールドとした実践型研究を展開
 ② 日本人と留学生がチームを編成し、問題解決型の教育研究を実施
 ③ 「都市型植物工場プロジェクト」(閉鎖型、太陽光利用型)、「都市緑化プロジェクト(コンテナシステム、建物緑化)」の2系統のプロジェクトに取り組む

〈人材像〉 実践的な技術と企画力を兼ね備え、多面的な都市環境において「植物による環境への貢献」を促すことができる技術に関する国際的な人材

協定校から優秀な学生を継続的に獲得

中国
 清華大学 上海交通大学
 浙江大学 同濟大学
 湖南大学 江南大学

韓国
 ソウル大学 KAIST
 延世大学 国民大学
 全北大学

アセアン
 タイ・マヒドン大学
 シンガポール・南洋理工大学
 インドネシア・ボゴール農業大学

育成した人材の将来像2
 自治体・関連団体
 大学教員・研究機関研究者

公的団体に就職し獲得した知識を利用・普及推進を実施
 技術開発を継続するために大学や研究機関に従事

- I 都市型植物工場の人材育成
- II 都市型緑化事業の人材育成

千葉大学
 植物環境デザインングスクール
 環境健康フィールドセンター*
 園芸学研究科* 工学研究科

プロフェッショナルとして日本で就職
 日本の企業に就職し技術者として従事

育成した人材の将来像1
 コンソーシアム企業の技術者・研究者
 植物事業のプロジェクトマネージャー
 各専門領域のスペシャリスト
 都市型の植物の専門家
 植物工場や緑化事業設備の専門家
 環境プロデュースの専門家

プログラムの特徴と人数
 実践型研究 完全英語
 ダブルディグリープログラムとの連携
 日本・中国・韓国 12名/年間
 アセアン諸国 6名/年間

コンソーシアムとの主な共同内容

- 1 授業計画などの立案支援
- 2 専門家の派遣
- 3 実践型プロジェクトの課題提供
- 4 プロジェクト成果のビジネス展開
- 5 ロングタームインターンシップ受入
- 6 本事業の評価の実施

*基幹部門

日本の企業に就職後現地のブランチの責任者として帰国
 出身国の公的団体に獲得した知識を利用 日本技術を輸入する立場に
 技術開発を継続するために自国のコンソーシアムの大学に教員として就職

企業との包括的な提携による人材育成

【得られる成果】

- 日本型の実践教育プログラムの中国・韓国等への普及による日本の技術力の展開
- 産業と教育の連携によるプログラムの浸透に伴う植物に関わる技術の輸出に寄与
- ダブルディグリープログラムによる国際的な人材育成と日本への優秀な人材の定着

日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業

選定取組一覧

国公私	大学名	取組名称	分野
国	千葉大学	植物環境デザインングプログラム	環境
国	東京海洋大学	海洋における日中韓高度専門職業人養成	環境・エネルギー
国	富山大学	和漢薬領域を基盤とした高度職業人育成事業	健康・医療
国	金沢大学	環境・エコ技術特別コースによる環境教育	環境・エネルギー
国	長崎大学	日中韓の大学間連携による水環境技術者育成	環境
私	中央大学	国際水環境理工学人材育成プログラム	水環境・水処理・水資源・利水・治水